昭和49年度全国大会経過報告

土木学会中国四国支部

1. はじめに

土木学会昭和 49 年度全国大会は，広島県佐伯郡五日市町の広島工業大学において，10 月 8 日より 4 日間にわたり，全国各地から多数の会員の参加を得て開催された。

行事は，大会初日の特別講演会，1165 件におよぶ学術研究発表会，8 テーマよりなる研究討論会，第 6 回土木学会映画コンクール入賞作品をはじめとする土木映画会，その他会員相互の親睦を図る懇親会，あるいは見学会など，すべて各位のご協力により盛会のうちに終了することができた。

行事の概要については次のとおりである。

写真—1　本年の大会場となった広島工業大学

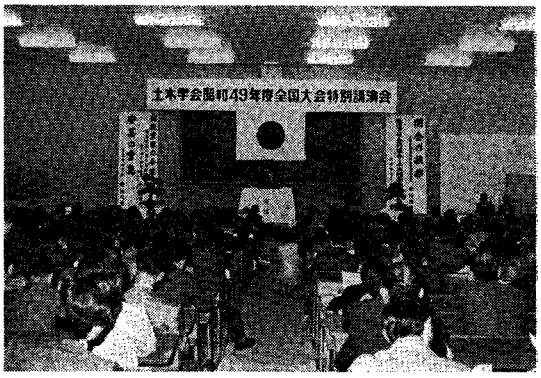
写真—2　受付けをすませる参加者

2. 特別講演会

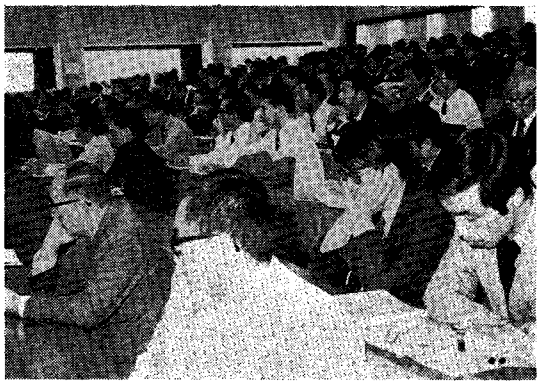
特別講演会は，大会第 1 日目の午前中，4 号館大講義室に 550 名の参加者を得て，松崎全国大会実行委員長の開会の挨拶により始められた。講師および講演題目は次のとおりである。

9.00～10.10　(1)　鉄道の社会的使命と土木技術発展への役割　　土木学会会長　瀧山　養

写真—3　講演集を購入する参加者



写真—4　特別講演会場



写真—5　熱心に聞き入る特別講演聴講者

10.10〜11.00　(2)　建設業界の今後——請負契約における法的諸問題——
土木工業協会広報部会長　小山内了介

11.10〜12.00　(3)　安芸の宮島　　厳島神社宮司　野坂元定

特別講演 (1), (2) については本号に別掲されているが, (3) についてはおよそ次のとおりである（野坂氏は明治26年生れで満86才の御高令にもかかわらず，本学会全国大会のために講演を快くお引受け頂いた)。

「安芸の宮島」：宮島は広島県の西南，瀬戸内海に浮ぶ小さな島で，その周囲は約 31 km ほどである。島は三つの小高い山を中心にできているが，地形が急しゅんで山裾は海岸まで及び，ほとんど平地らしいものはない。この島に大同二年（807年）に空海（弘法大師）が唐より帰朝のときに来島し大日堂（神護寺）を建立している。

写真—6　「安芸の宮島」を講演する野坂元定厳島神社宮司

その後，平清盛が久安二年（1146年）安芸守に派遣されたとき，この島に社殿を造営した。清盛は，社殿完成のため任期の延伸を願い出て（当時任期は5年であった)，7年の歳月を費やして社殿を完成した。そして保元元年（1156年）播磨守として赴任するが清盛が初めて厳島神社に参詣できたのは，永暦元年1160年）のことである。

宮島という島の呼び名になったのは，つい最近のことであるが，この島は古くから厳島と呼ばれていた（昭和25年厳島町を宮島町と改める)。厳島という島の名の由来は，この島を斉（いつ）き祀るということからとする説と，市杵島姫命（いちきしまひめのみこと）を祀っていることからとする説がある。

宮島に古来から行われている管絃祭も，平清盛が神を祭るために始めたもので，往時の平家一門の力をしのばせている。

宮島の管絃祭は夏に行われるが，管絃を使うためには大きな船がいり，これに宗との貿易に使う船を用いたものと推定される。したがって，船のきっ水が深く，潮の満干が大潮のときでなければ社殿近くに入ることができず，そのため台風時期を避け，旧暦6月17日を管絃祭と定めたようである。

大正12年厳島全島が史跡名勝に，昭和27年文化財保護法により本社，客人社，回廊が国宝に，そして現在，厳島全島が特別史跡，特別名勝に指定されている。

3. 学術講演会

年次学術講演会への申込みは，1194 件あったが申込者の都合により最終的には1165 件の研究発表がなされた（前年度に比べて136件の増)。講演会は，部門ごとに各号館22会場に分れて所定のプログラムにより発表された。各部門の発表件数，聴講者数は **表—1, 2** のとおりである。

なお，学術講演会の実施にあたっては次の方々にご尽力いただいたことを深く感謝する。

司会者および総括報告者一覧

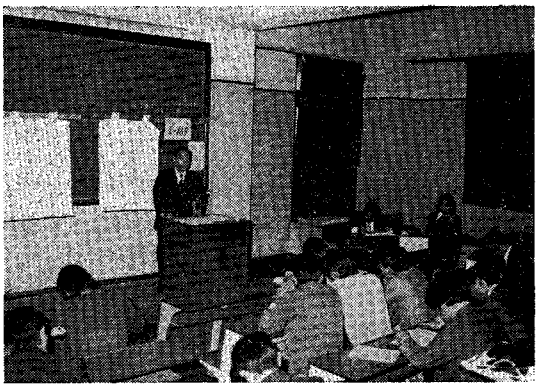
(1)　**第Ⅰ部門**

司　会　者：

小林　昭一	小西　一郎	山田　善一	後藤　尚男
土岐　憲三	能町　純雄	芳村　仁	佐武　正雄
倉西　茂	稼農　知徳	伊藤　学	片山　恒雄
田村重四郎	伯野　元彦	西野　文雄	吉田　裕
西脇　威夫	宮原　玄	堀井健一郎	矢島　基臣
吉田　博	小堀　為雄	深沢　泰晴	夏目正太郎
吉田　俊弥	長　尚	後藤　茂夫	武田　洋
林　有一郎	波田　凱夫	高本　一裕	佐藤　誠
井上　肇	菊池　洋一	川本　朓万	福本　晴士
島田　静雄	前田　幸雄	小松　定夫	岡村　宏一
赤尾　親助	中井　博	園田恵一郎	西村　昭
桜井　春輔	米沢　博	大村　裕	会田　忠義
児島　弘行	見沢　繁光	大久保禎二	小坪　清真
中村　泰治	山本　宏	三池　亮次	平井　一男
栗林　栄一	大久保忠良	岩崎　敏男	

表—1　研究発表数

部門	発表数（件） 本年度	発表数（件） 昨年度	増加数
第Ⅰ部門（応用力学，構造力学，構造工学，橋梁一般，鋼橋など）	291	255	36
第Ⅱ部門（水理学，水文学，河川工学，海岸工学，発電水力，衛生工学など）	315	271	44
第Ⅲ部門（土質工学，基礎工学，岩盤力学など）	211	186	25
第Ⅳ部門（道路工学，鉄道工学，交通計画，地域計画，測量など）	178	161	17
第Ⅴ部門（土木材料，土木施工法，コンクリートおよび鉄筋コンクリート工学，その他）	170	156	14
計	1165	1029	136



写真—7　学術講演会会場寸景

表—2　学術講演会聴講者数

区　分	会　場（広島工業大学）	10月8日（火）	10月9日（水）	10月10日（木）
第Ⅰ部門	10—207	90	110	40
	10—101	90	90	40
	10—106	90	90	40
	10—107	90	110	40
	10—306	90	90	40
	10—301	90	90	40
第Ⅱ部門	1—204	90	100	50
	1—203	90	110	40
	1—202	90	90	40
	1—201	90	90	80
	1—302	100	110	50
	1—301	80	70	50
第Ⅲ部門	5—105	70	70	60
	5—201	90	90	60
	5—203	60	70	40
	5—313	70	70	40
第Ⅳ部門	9—201	60	90	80
	9—202	70	70	40
	9—301	70	70	80
第Ⅴ部門	1—407	160	160	130
	1—303	150	130	110
	1—304	90	130	90
計		1970	2100	1280
総　計		5350		

（2）第 II 部門

司会者：

岩垣　雄一　室田　明　細井　正延　井島　武士
尾崎　晃　角屋　睦　石原　安雄　高橋　裕
西畑　勇夫　上田年比古　芦田　和男　山岡　勲
杉尾捨三郎　吉川　秀夫　佐々木大策　林　泰造
岩佐　義朗　椿　東一郎　岩崎　敏夫　杉木　昭典
井上　頼輝　柏谷　衛　遠藤　郁夫　川島　普
岩井　重久　南部　牂一　末石冨太郎　寺島　重雄
松本順一郎　青木　康夫

総括報告者：

土屋　義人　岩田好一朗　酒井　哲郎　光易　恒
三井　宏　服部昌太郎　野田　英明　椹木　亨
長尾　正志　神田　徹　高棹　琢馬　高瀬　信忠
友杉　邦雄　宮村　忠　木下　武雄　岡　太郎
尾島　勝　村本　嘉雄　白砂　孝夫　鮓川　登
須賀　堯三　河村　三郎　大同　淳之　土屋　昭彦
荻原　国宏　篤　源亮　名合　宏之　荻原　能男
日野　幹雄　余越正一郎　板倉　忠興　今本　博健
玉井　信行　崎山　正常　早川　典生　柏村　正和
安芸　周一　和田　明　松尾　友矩　栗谷　陽一
平岡　正勝　神山　桂一　北尾　高嶺　高桑　哲男
筒井　天尊　寺島　泰　丹保　憲仁　石黒　政儀
住友　恒　中西　弘

（3）第 III 部門

司会者：

赤井　浩一　三笠　正人　山口　柏樹　中瀬　明男
福岡　正巳　網干　寿夫　谷本　喜一　市原　松平
稲田　倍穂　山下　親平　河上　房義　山門　明雄
斉藤　二郎　久野　悟郎　小田　英一　松尾新一郎
北郷　繁　吉国　洋　小野寺　透　佐武　正雄

総括報告者：

宇野　尚男　吉国　洋　藤本　広　柴田　徹
軽部　大蔵　石原　研而　小川　正二　浅田　秋江
渡辺　進　吉田　信夫　清水　英治　大原　資生
浅川　美利　川本　朓万　桜井　春輔

（4）第 IV 部門

司会者：

西村　昂　飯田　恭敬　奥谷　巌　岩佐　正章
太田　勝敏　中村　良夫　松井　寛　佐藤　吉彦
明神　証　石井忠二郎　花岡　利幸　松浦　義満
星　仰　中村　英夫　森地　茂　藤田　昌久
木俣　昇　青山　吉隆　金丸　次男　山川　仁
河上　省吾　山村　悦夫　山形　耕一　中川　三朗
山田　優　渡辺　卓郎　斎藤　和夫　前島　忠文
奥山　育英　岡　昭二

（5）第 V 部門

司会者：

荒木　謙一　岡田　清　小林　正几　西林　新蔵
小林　一輔　山崎　寛司　明石外世樹　長滝　重義
藤木　洋一　阿部　博俊　水野　俊一　岩崎　訓明
川村　満紀　木山　英郎　石川　達夫　西沢　紀昭
堺　毅　塚山　隆一　枷場　重正　吉本　彰
吉田　弥智　徳光　善治　池田　尚治　岡村　甫
菅原　照雄　渡辺　隆　藤田　嘉夫　小柳　洽
角田与史雄　神山　一　北田　勇輔　船越　稔
西堀　忠信　青柳　征夫　出光　隆

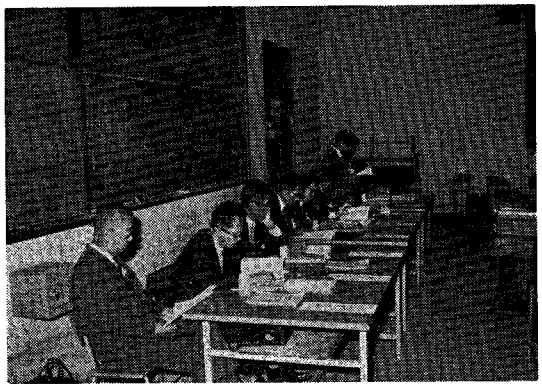
4. 研究討論会

研究討論会は，最近の話題を中心に各委員会および中国四国支部で決定された8テーマについて，おのおの専門の立場から討論をなされた。

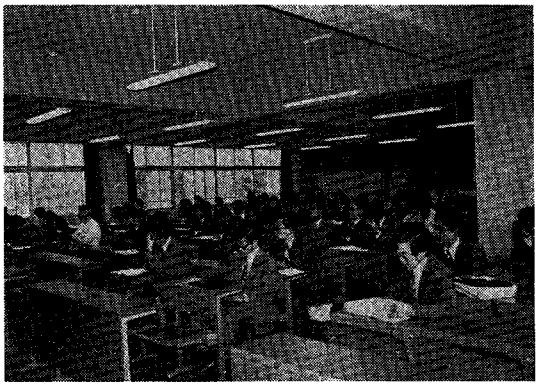
討論会の聴講者は延べ1050名に達し，各会場とも一般会員も含めて熱心に討議された。討論の概略の内容については第29回年次学術講演会研究討論会資料を参照されたい。テーマ，座長および話題提供者は次のとおりである。

表—3　研究討論会テーマ，座長および話題提供者

月/日（会場）	テーマ（テーマ選定母体）	座　長	話　題　提　供　者	参加者数
10/9 (1--302)	建設工事における海外と国内の「断絶」（海外活動委員会）	吉越盛次	松原健太郎，赤木俊允，石橋哲夫	90
10/9 (5—201)	重要文化財と土木（日本土木史研究委員会）	高橋　裕	青木楠男，石原藤次郎，佐藤重夫	100
10/9 (10—207)	海洋鋼構造物の現況と問題点（中国四国支部）	村上永一	秋山成興，佐竹　優，吉田　巌	150
10/9 (1--201)	海水交流と水質の汚濁—瀬戸内海を中心として—（水理委員会，海岸工学委員会，中国四国支部）	岩垣雄一	樋口明夫，中西　弘，土屋昭彦	120
10/9 (5—105)	地盤の変形と破壊解析の問題点（中国四国支部）	網干寿夫	山口柏樹，柴田　徹，中瀬明夫	200
10/9 (5—203)	トンネルの調査と掘削によって生ずる地表部への影響（トンネル工学委員会）	島田隆夫	川崎迪一，桜井三男，笹木　胖，田島利男，塚田　章，戸田隆志，三好迪男，山崎広宜	50
10/9 (9—201)	省エネルギーと交通（土木計画学研究委員会）	安山信雄	広田孝夫，並木昭夫，中村英夫，定井喜明	160
10/9 (1—301)	海洋コンクリート構造物（中国四国支部）	田中行男	赤塚雄三，河野通之，岡村　甫，桜井紀朗，遠藤武夫	180
計（延べ）				1 050



写真—8　貴重な資料を中心に討議を進める研究討論会の話題提供者



写真—9　活発な討論会を期待して集った研究討論会の聴講者

5. 映　画　会

図書館視聴覚教室において，3日間にわたり27本の土木関係映画が上映された。

映画は，土木学会第6回映画コンクール入賞作品をはじめ記録映画，特に現在ややもすれば誤解されやすい土木が，自然と人間の間に調和のとれた接点を作り出す技術であることを強くアピールした土木学会創立60周年記念映画「国土をいかす知恵」が好評であった。

観覧者総数およそ850人であったが，一時は後部に立って見る人もあるほどであった。上映映画は次のとおりであるが，ここにフィルム提供者各位に対し深く謝意を表する。

上映映画名

①国土をいかす知恵（土木学会），②広島の観光（広島市），③瀬戸に築く（道路公団），④安芸路を貫く長大トンネル（広島新幹線工事局），⑤関門橋*（道路公団），⑥新成羽川（発）建設記録（中国電力），⑦東京港海底トンネル（湾岸線沈埋工事共同企業体），⑧海底軟弱地盤に築く（道路公団），⑨西部開発の計画編（広島市），⑩水はよみがえる（下水道協会），⑪渡良瀬遊水池*（関東地建），⑫海上にかける（道路公団），⑬原子力と環境（通産省・日本原子力），⑭本四架橋の設計調査*（本州四国連絡橋公団），⑮スラブ軌道敷設（広島新幹線工事局），⑯四十曲トンネル（中国地建），⑰早瀬大橋（広島県），⑱新しい橋梁技術（広島新幹線工事局），⑲島根原子力（前編）（発）建設記録（中国電力），⑳波と闘う人々*（中国地建），㉑デルタを守る（中国地建），㉒衣浦港海底トンネル（五洋建設），㉓東京地下駅の建設*（国鉄東京第一工事局），㉔入江大橋（福山市），㉕黒尾の橋（中国地建），㉖島根原子力（後編）（発）建設記録（中国電力），㉗洪水のない明日を築くために（中国地建）．

注：* 印は第6回土木学会映画コンクール入賞作品．

6. 見　学　会

見学会は当初，宮島・錦帯橋コース，野呂山・尾道コースと音戸大橋・江田島コースが計画されたが，前2コースは申込数が定員35名に満たず，お申込みいただいた方々には，ご期待にそえず残念であったが，中止の止むなきに至った。

音戸大橋・江田島コースには，60名の参加申込みがあり，11日午前9時2台のバスに分乗して平和公園を

写真—10　江田島旧海軍兵学校で説明を聞く見学会参加者

写真—12　本年のガーデパーテァーには若い会員の参加が目立った

写真—11　ガーデンパーティーで交歓のひとときをすごす参加者

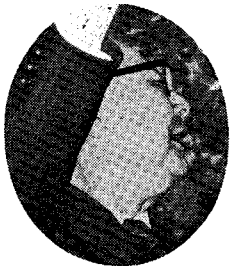
写真—13　同　　上

出発した。おもな見学先は次のとおりである。

高瀬堰—広島大橋—音戸大橋—早瀬大橋—江田島

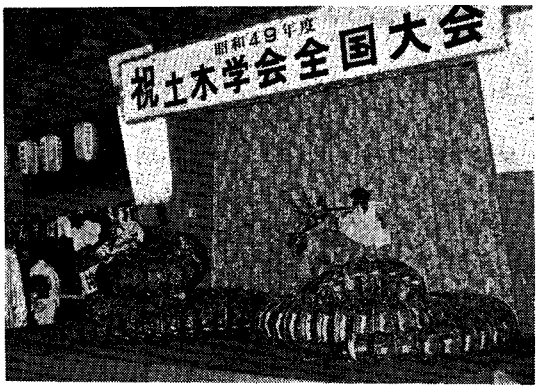
7. 懇　親　会

懇親会は，10 月 8 日 18 時より市内羽田別荘の日本庭園でガーデンパーティーが開かれた。前日までの申込みは 230 名程度であったが，当日申込みの方が多く，多数の会員（400 名）の参加を得て盛大に行うことができた。



写真—15　乾杯の音頭をとる青木楠男名誉会員

会は，松崎大会実行委員長の歓迎の挨拶に始まり，土木学会会長，広島県知事，広島市長および中部支部長（次期大会開催支部）の祝詞を得て，名誉会員青木楠男博士の乾杯の音頭で宴に移った。会員相互の親睦を深める談笑の内にアトラクション有田かぐら（須佐之男命の八岐大蛇退治）は，懇親会に一段と興をそえ好評であった。



写真—14　参加者の注目を浴びたアトラクション「有田かぐら」のひとこま

19 時 30 分，まだ名残りもつきない宴の最中であったが名誉会員近藤泰夫博士の音頭で，土木学会の発展を祝し声高く万才を三唱して終了した。

8. 謝　　辞

土木学会昭和 49 年度全国大会は，中国四国支部担当のもとに，さる 10 月 8 日より 4 日間にわたり延べ 5 400

写真—16　大会を主催した松崎彬麿中国四国支部長

人の参加者を得て，盛会のうちに全行事を終了いたしました。

この大会は，特別講演をはじめとして1165件におよぶ学術研究発表，研究討論会，映画会等，貴重なる発表，討論がなされ，土木技術発展のために，大きな役割を果たしたものと確信いたしております。

この貴重なる大会を当地方で開催し，無事終了することができましたことは，ひとえに会員諸氏をはじめ，賛助者，地元関係各位の絶大なるご尽力と，ご協力のたまものと深く感謝し，誌上を借りて，厚くお礼申し上げます。

土木学会昭和49年度全国大会　実行委員長
土木学会中国四国支部長　松崎彬麿

昭和49年度全国大会実行委員会委員名一覧（順不同）

実行委員長	松崎　彬麿		
副委員長	渡辺　政男	高橋　信雄	鈴紀　喜久
事務局	長井　健	浦木　匡	石田　真一
	福村　慶則	斉田　良男	大川　勝敏
総務部	長井　健	用害澄之助	岩橋　洋一
	藤戸　竜爾	伊藤　敏	寺西　靖治
	木佐谷　清	藤田　亮	古本　麻生
財務部	田島　秀郎		
講演部	金丸　昭治	荒木　謙一	門田　博知
	寺西　靖治	名合　宏之	大村　裕
	青木　康夫	佐藤　誠	吉国　洋
	杉恵　頼寧	船越　稔	小川　康彦
	長本　隆夫	永田　栄亮	米倉亜州夫
	中野堂裕文	三島　隆明	山口登志子
見学部	高本　一裕	福田　玆久	
監査	坂田　静雄	松村　恭二	

昭和49年度全国大会賛助者（順不同）

土木工業協会中国支部，日本電力建設業協会中国支部，鉄道建設業協会広島支部，日本道路建設業協会中国支部，広鉄工友会，広島県建設工業協会，広島県アスファルト舗装協会，広島市建設協会，プレストレストコンクリート工業協会中国支部，鉄骨橋梁協会関西支部，中国電力株式会社，川崎製鉄株式会社，日本鋼管株式会社，中国地質調査業協会，全国測量業協会中国支部，コンサルタント協会中・四支部，広島県，広島市，日本道路公団，セメント協会，土木工業協会四国支部，日本電力建設業協会四国支部，日本道路建設業協会四国支部，四国親交会

配管工学ハンドブック
——全2巻

S.シュワイゲラー編　（I）菊判・370頁　5000円（II）続刊

川下研介・若林鐵生監訳　ドイツにおける配管工学の権威者20数氏の協力をえて執筆された本書は，配管の計画・設計・施工の際に不可欠な理論を体系化し，多数の鮮明な図・写真，実用性の高い数表・ノモグラフをとり入れ，また詳細な各種の配管計算法を展開し，実際面で直ちに役立つように配慮されている．配管の関係技術者にとっては好個の実務参考書といえよう．第II巻は来年10月に刊行予定．

●第I巻の目次＝配管に関する一般的考察／配管の要素／配管付属装置／配管工事における溶接／配管の腐食と防食／配管の計算

日本の土木地理　国土への認識と理解のために

土木学会編　A5判・456頁　3200円

〈土木学会創立60周年記念出版〉　土木事業を主題とした地理学的手法をもって把握し，土木とは何かを解明．

最新土質実験　その役割と背景

●最新土木工学シリーズ21

松尾　稔著　A5判・240頁　1800円

土質実験法の解説はもちろん，個々の土質実験の目的やその工学における位置づけ，つまり現場における実際現象との関連に重点をおいて記述した大学・工専の学生のための新しいタイプのテキスト．

●目次＝総説／物理学的試験各論／力学的試験一般論／力学的試験各論／付録：土質試験法

新土木設計データブック
——全2巻

成瀬勝武編　B5／（上）8000円（下）9000円

森北出版
東京都千代田区神田小川町3の10
電話03-292-2601／振替東京34757